

I ソフィア会奨学金について

1、ソフィア会奨学金創設の背景

大学の生き残りの時代に直面する中、奨学金が、上智大学の目指す「個性化」に貢献することとなり上智大学のブランド力強化につながると考えています。

2017年4月以降入学者からソフィア会終身会費を改定(2万円から4万円)しましたが、その改定の目的の一つにソフィア会奨学金の導入がありました。終身会費改定に伴う実質のソフィア会の収入増加が2020年に実現しますので、この時期にあわせて母校への貢献の中核をなす奨学金の導入を行うものです。(一部は既存予算の範囲で2019年度前倒し実施します。)

他大学の例でも同窓会活動を親睦中心から学生支援に軸足を移す動きがありますが、近年、ソフィア会においても、学生支援を重点施策としてきております。

2、ソフィア会奨学金創設の目的

ソフィア会の2つの目的のうちの1つである「母校の使命達成と発展に貢献すること」が目的になりますが、ソフィア会の重点施策である現役学生支援の一環として、課外活動支援に加えて、ソフィア会奨学金を推進するものです。繰り返しになりますが、これは、上智学院からの強い期待に応えるものであり、そして、上智大学のブランド力向上に貢献するものです。

3、ソフィア会奨学金創設による期待効果

- ① 奨学金が整備されることで上智大学の「個性化」に貢献し国内外における評価が高まること。
- ② グランドレイアウト 2.0 に掲げる上智大学におけるグローバル人材育成に貢献すること。
- ③ 経済的理由で、あきらめている学生に留学のチャンスを与え、アルバイト時間を軽減して勉学の時間を増やすこと。
- ④ 遠方からの入学希望者へより門戸を開き学生の多様性に資すること。
- ⑤ 現役学生のソフィア会認知度が高まり、また、ソフィア会と現役学生の連携が深まること。
- ⑥ ソフィア会会員からの募金による支援を組みあわせることで、ソフィア会会員による学生支援の機運を高めること。

4、基本となるソフィア会奨学金の概要

30年近いソフィア会奨学金の過去の支給実績の歴史を踏まえつつ、今般、「ソフィア会」を冠する新たな「ソフィア会奨学金」を創設します。母校への貢献の中核となる基本の奨学金としては以下の2本立てとします。

これらの奨学金は返還義務のない給付型とし、毎年安定的に同規模の支給を継続する計画

でおります。

この2本立ては、上智大学の目指す奨学金(経済的困窮度の高い学生への支援(ニードベース)とグローバルリーダー養成と多様性の確保(メリットベース))と調和したものであり、バランスよく配分するものです。

ソフィア会生活支援奨学金

経済的困窮度の高い学生への支援(ニードベース)としては、上智大学では、就学奨励奨学金(経済状況に応じて学費の一部または全部免除)を採用し学費に関する支援は行っているが、生活費に関する支援は行っていない。そこで、ソフィア会では、生活費の支援を行うこととして、特に遠方で親元から通学することができない者を支援します。

親の経済力がそのまま子の学歴に反映されてしまいがちな状況から抜け出す機会を与えることとなります。上智大学入学者には首都圏が多いが遠方からの入学希望者へより門戸を開く効果を期待します。

ソフィア会留学支援奨学金

グローバル人材育成に貢献することを目的として、2019年度から以下の2つの留学支援奨学金をスタートします。

- ① 上智大学が力を入れている交換留学(1年間または1学期間留学)にソフィア会から毎年安定的にかなりの額を支援することにより、オープンキャンパス等で、入学志願者に強くアピールする効果があり上智ブランド力の向上へ貢献が期待できます。
- ② 短期留学に関して、「経済的な事情で諦めていた機会へチャレンジできる環境を提供する」目的での支援を、グローバルリーダー要請の観点で効果的な海外短期研修(2017年度実績 105名)、実践型プログラム(同、165名)を対象として創設します。

5、ソフィア会奨学金基本運営指針

広く認知される長期的に継続し定着する制度とし、財政面の事情での安易な減額はしないこととします。これにより、制度への期待、信頼感を醸成し、現役学生への訴求力を高め、世代間の公平性を担保するようにします。

6、ソフィア会奨学金の制度設計と今後の見直しにおける要件(条件)

基本運営指針にしたがいin運営を継続しますが、今後必要に応じて制度の見直し改定をすることがあります。その際は、以下の要件を前提といたします。

- ① 上智大学の教育精神である「他者のために、他者ととともに」に沿ったものであること。
- ② 上智大学が目指す方針(現時点ではグランドレイアウト2.1など)と調和したものであること。
- ③ 他の奨学金との重複などに配慮されたものであること。

6、ソフィア会奨学金給付計画

毎年度のソフィア会の予算計画に応じて、給付額は調整されることがあります。

奨学金の種類	主目的	対象人数(毎年)	奨学金金額(万円)	2019年度金額(万円)	2020年度金額(万円)	2021年度金額(万円)	2022年度金額(万円)	2023年度金額(万円)
ソフィア会生活支援奨学金 遠方からの入学者対象 1学年 5名X 4年間	生活費経済支援	5	50	—	250	500	750	1,000
ソフィア会留学支援奨学金								
交換留学一般枠 — 成績優秀者、所得制限有	交換留学の支援	3~4名程度	(注1)	300	250	250	250	250
短期留学経済支援枠 — 就学奨励奨学金受給者を対象	留学に関する経済支援	7~8名程度	(注2)	300	250	250	250	250
合計		—	—	600	750	1,000	1,250	1,500

(注1) 1学期か1年、地域、期間により給付額が異なるが、一人平均80万円程度

(注2) 短期留学プログラムにより給付額が異なるが、30万円から40万円程度の給付

Ⅱ、ソフィア会奨学金基金設置と募金推進について

1、ソフィア会奨学金基金の設置

毎年の財源から毎年全て給付するという考え方もあるが、現在の学生とともに未来の学生へ長期的継続的安定的に支援し続ける体制が重要と考えて、基金を設置して、毎年基金の増額を進めます。この基金は、上智学院 SOPHIA 未来募金使途指定として上智学院の基金制度(現在、毎年3%利率実績、上智学院が毎年見直し)の枠組みの中に設置いたします。

2、ソフィア会奨学金基金へのソフィア会から拠出と会員からの募金について

奨学金基金の果実(現時点で利率3%、上智学院が毎年見直し)を早期に享受することを目的にして、また、会員からの募金の機運を高める効果を期待して、

ソフィア会の積立金残高から2020年年初に1億円を拠出いたします。
毎年ソフィア会から5百万円、会員からの寄付5百万円を募ることとし、10年後の2029年には、2億円の奨学金基金残高を目指します。

ソフィア会奨学金基金への募金推進と給付額

単位：千円

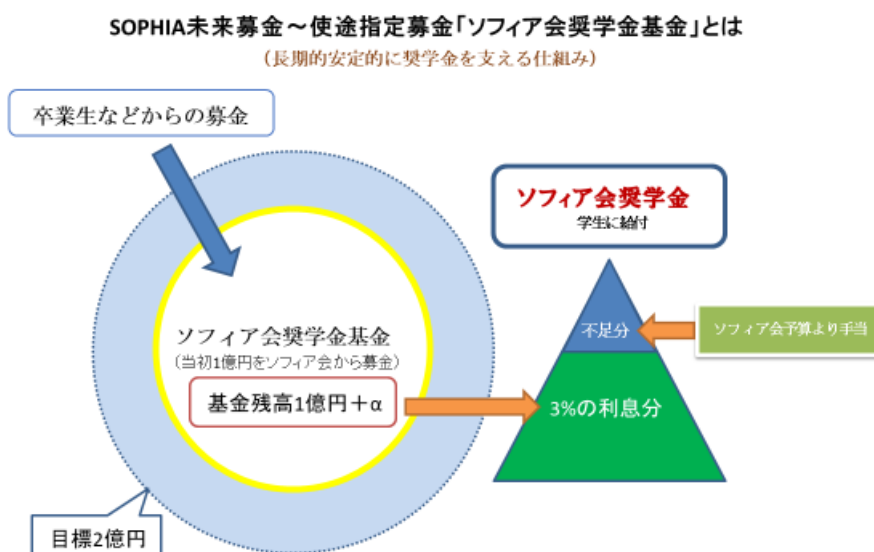
	2019	2020	2021	～	2027	2028	2029
生活支援奨学金		2,500	5,000		10,000	10,000	10,000
留学支援奨学金	6,000	5,000	5,000		5,000	5,000	5,000
奨学金給付支出計画合計 (a)	6,000	7,500	10,000		15,000	15,000	15,000
<hr/>							
奨学金基金への一括拠出		100,000					
奨学金基金への年次拠出		5,000	5,000		5,000	5,000	5,000
会員からの募金		5,000	5,000		5,000	5,000	5,000
基金合計 (b)	0	110,000	10,000		10,000	10,000	10,000
<hr/>							
基金残高 (c) = 前年度残 + 当年度 (b)	0	110,000	120,000		180,000	190,000	200,000
<hr/>							
基金果実 (d) = 前年 (c) * 3%	0		3,300		5,100	5,400	5,700
<hr/>							
ソフィア会の奨学金支出 (e) = (a) - (d)	6,000	7,500	6,700		9,900	9,600	9,300

ソフィア会の毎年の決算報告時に、ソフィア会奨学金基金残高も併せてソフィア会会員にご報告する予定です。

3、会員からの募金の方法について

上智学院 SOPHIA 未来募金において、使途指定「ソフィア会奨学金基金」として募金いただくことで、募金(寄付)となります。

2020年2月1日にスタートする際には、使途指定「ソフィア会奨学金のために」という名称になります。(寄金が創設された暁には、前記使途指定「ソフィア会奨学金基金」となります。) 募金方法の詳細は、別途の資料でご案内します。



*長期的には、基金の果実のみで、すべての給付の財源となることを目指します。

4、他の募金との関係について

現在、理工学部同窓会、経済学部同窓会(経鷲会)では現役学生への奨学金の寄付を募っておりますし、それ以外でも、特定の学科の学生を対象にする奨学金が複数存在しますので、これらのどれを優先して募金(寄付)されるかは、会員各自の自主的なご判断によりご決定いただきます。

以上